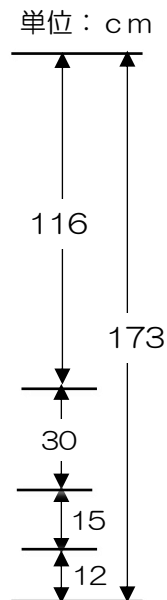


【23】大田市鳥井町新田 旧道沿い（宮本 大15/ロータリー23） **井戸恩澤碑**

所在地 大田市鳥井町新田 集落外れの旧道沿い南側
 北緯35°13'32.13" / 東経132°29'51.14"

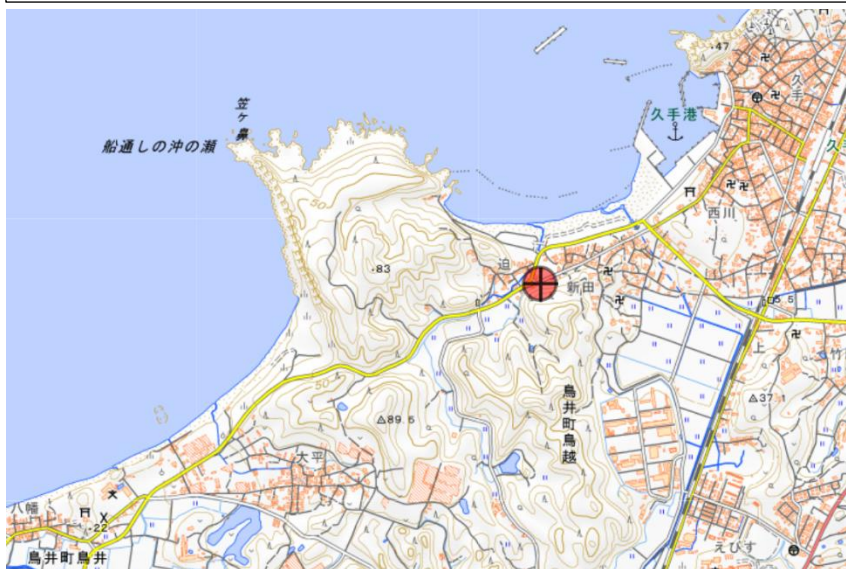


碑石最大幅 69 / 奥行き最大 20
 台石1段目幅 89 / 奥行 52
 台石2段目幅 97 / 奥行 60
 台石3段目幅 103 / 奥行 75

〔調査の経過〕
 現在は久手港から鳥井町まで新しい海岸道路ができていますが、以前は新田の集落の間の狭い道路が鳥井町まで続いていた。以前の狭い道路が広い道路に合流する地点の近くにこの碑はある。道路からコンクリートの進入路が数段あり、その先の4段の石段を上がると、3方をブロック塀で囲った広場があり、井戸公碑とその左に祠が建っている。「井戸恩澤碑」と「村中合等」以外に文字は見当たらない。碑石は1段目の台石に約20cm埋められており、そのため弱くなった1段目の台石が割れたものと思われる。「村中合等」の文字は朝山町に1基みられるだけの珍しい表記だが、「村の人たちが等しく力を合わせた」という意味で、興味深い。大きな碑ではないが、山影にある白っぽい石碑で、よく目立つ。

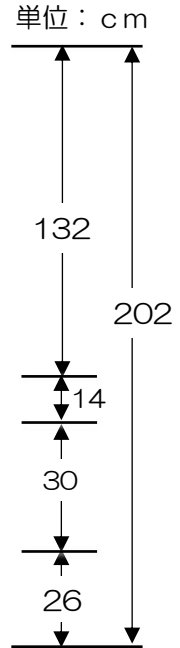
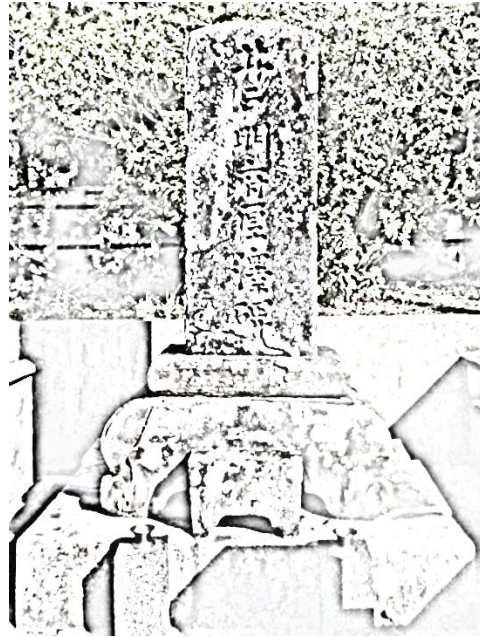
〔建立年〕不明
 〔建立者〕村中合等
 〔碑石前面〕井戸恩澤碑
 〔一段目台石前面〕村中合等

（調査日2020年11月25日）



【24】大田市鳥井町八幡 鳥井まちづくりセンター前（宮本 大16/ロータリー24） 井戸明府厚澤碑

所在地 大田市鳥井町八幡 鳥井まちづくりセンター前の県道沿い（佐比売山神社下）
 北緯35° 13' 03.36" / 東経132° 28' 45.41"



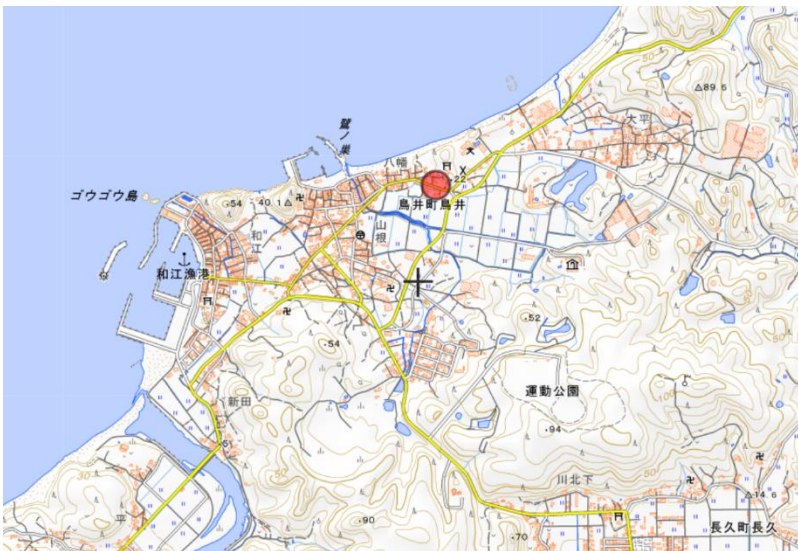
碑石幅 51 / 奥行 31
 台石1段目幅 76 / 奥行 51
 台石2段目（猫足）幅 102 / 奥行 83
 台石2段目幅 146 / 奥行 126

〔調査の経過〕
 県道から2段の石段を上った場所に玉垣を巻いて庭にしてある。碑石は黒っぽく堅そうだが、一部剥離が見られる。碑石の裏には難しい漢字を使った漢文調の碑文があり、台石にも飾り罫を入れている。2段目台石の猫足も細かな細工がしてあり、全体として格調高い。享保の飢饉のときに免税になった村だけに、井戸公への思いが強かったのだろう。二重になった玉垣の外側には「明治百年記念／改修昭和四十三年八月／発起明福会／門柱玉垣寄贈者／木村幾兵衛」とある。

〔建立年〕天保10年（1839）
 〔建立者〕鳥井村中

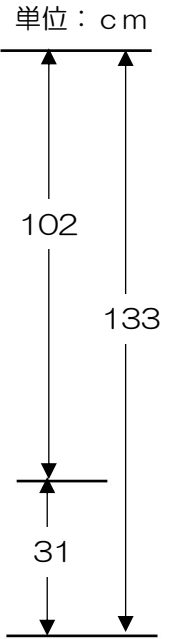
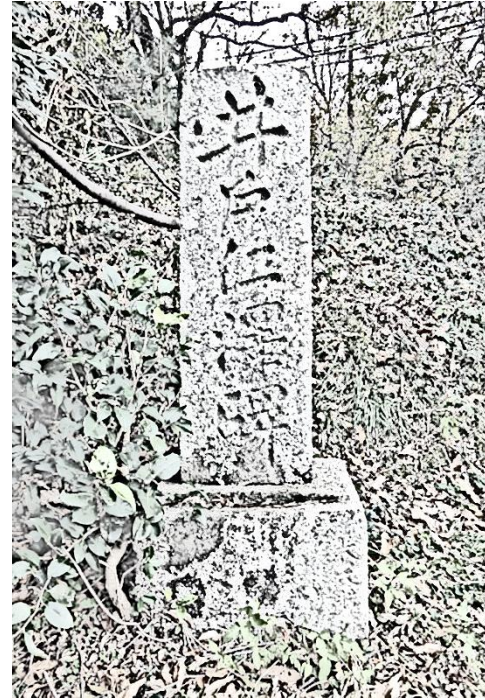
〔碑石前面〕井戸明府厚澤碑
 〔碑石裏面〕維昔天保己亥之冬至日後穀旦／奉／祀奠／本邨鳥井拳里？1首等拜首稽？2謹建（？）
 「里」の右に「今」その下に「心」？2「桑」の右に「頁」
 〔台石〕なし

（調査日2020年11月25日）



【25】大田市長久町川南 (宮本 大08/p-列-25) 井戸仁澤碑

所在地 大田市長久町川南 (大田町山崎と長久町川南の境付近、現川南1不燃物集積所の上)
 北緯35° 11' 49.15" / 東経132° 29' 37.75"



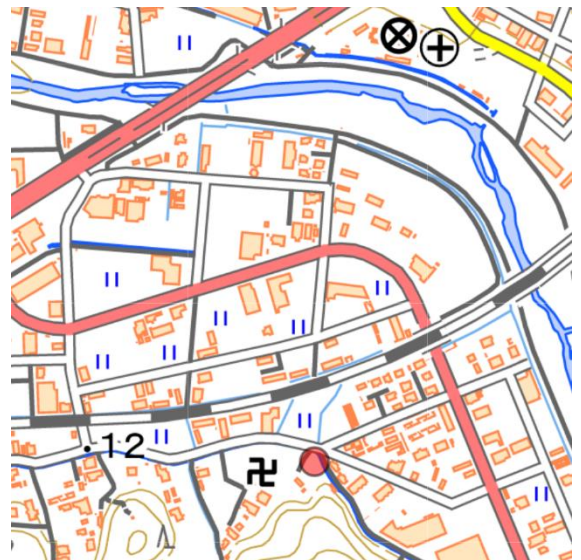
碑石幅 33 / 奥行き 27
 台石1段目 53 / 奥行 58

【調査の経過】
 宮本調査では「安立寺横丘」となっているが、大田町山崎から市道で長久に入ってすぐのところにある「川南1不燃物集積所」を目標にした方がわかりやすい。その後ろの丘の上に立つ。碑石に幅の細い台石1段という建て方は隠岐島に多い建て方で大田市内では少ない。水と線香を供えるために台石の上が彫り下げである。碑石右側からの風が強いのか、正面に比べて右面の文字がやせている。台石の正面にも小さい字が彫ってあるが読めなくなっている。宮本調査では「長久村／発起人／前原茂吉／坂根栄二他」となっている。三谷氏の「大田碑石散歩」では古老の話として「神社にあったものを合祀せずに単独でこの場所に移した」とある。広くて人口もそれなりにある長久町でただ1基の井戸公碑である。

(調査日2020年11月25日)

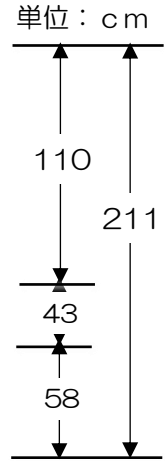
【建立年】明治25年(1892)
 【建立者】川南中

【碑石前面】井戸仁澤碑
 【碑石右面】明治廿五年九月
 【碑石左面】長久川南中
 【台石前面】長久村……



【26】大田市静間町棚 JR 静間駅前 (宮本 大 25/ロー列-29) 泰雲院表徳碑

所在地 大田市静間町棚 静間駅前
 北緯 35° 11' 44.58"
 東経 132° 28' 05.74"



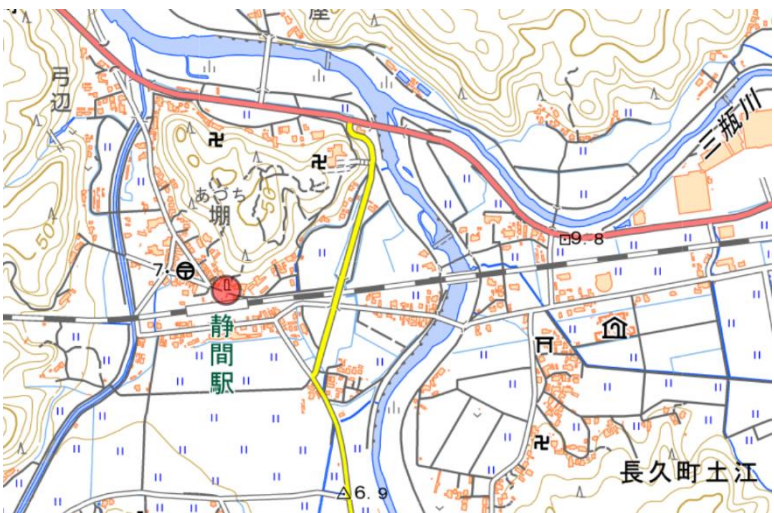
碑石最大幅 74 / 奥行最大 48
 台石1段目最大幅 184 / 奥行最大 139
 台石2段目 (石組)
 最大幅 257 / 奥行最大 206

〔調査の経過〕
 JR 静間駅前にある。住宅の隣接地に3段の石組を積んで広場を作り、その上にこの碑だけが立っている。碑には痛みはなく端正なままだが、表面の「泰雲院表徳碑」以外に全く文字が見当たらない。

地元の方の中には「ここは元々楫野氏の土地なので、楫野氏が自分の土地に建てたため、建立者などが彫られていないのかも「しれない」という方もある。自然石の碑石も大きく、台石も立派。2段目は形を整え、表面を平らにした石を2段組むなど、かなりいいねいな造りになっている。広場を支える石組も同様の造りだ。

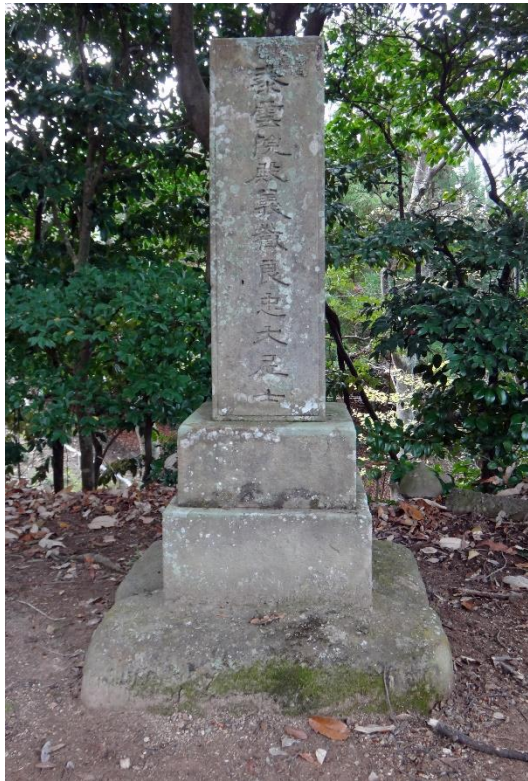
〔建立年〕 不明
 〔建立者〕 不明
 〔碑石前面〕 泰雲院表徳碑
 〔その他〕 文字なし

(調査日 2020年 11月 25日)

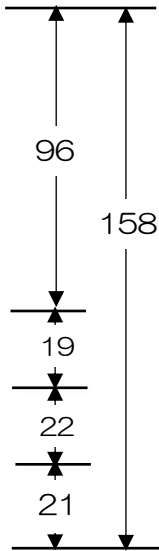


【27】大田市静間町仮屋 円通寺 (宮本 大27/ロータ-31) 泰雲院殿義嶽良忠大居士

所在地 大田市静間町仮屋 円通寺境内 石段を上げて右手
 北緯35° 11' 54.09" / 東経132° 28' 16.50"



単位：cm



碑石幅 27 / 奥行 27
 台石1段目幅 41 / 奥行 41
 台石2段目幅 48 / 奥行 48
 台石3段目幅 82 / 奥行 69

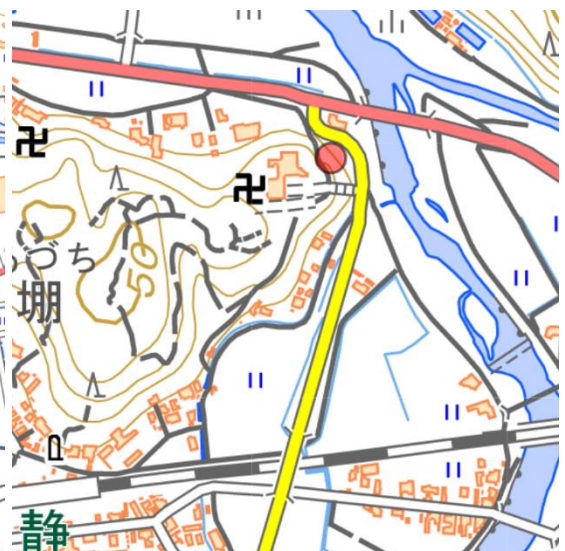
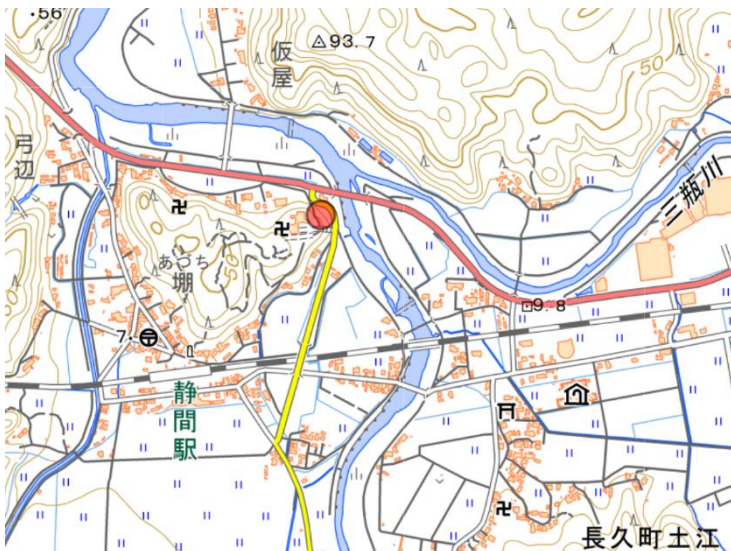
(調査日 2020年11月25日)

「調査の経過」
 円通寺の境内にある。石段を上がると右手、車で上がると左手に観音像や小祠などが並ぶ広場が整備され、その一角に井戸公碑も建っている。広場はよく手入れされている。碑は福光石と思われるが傷みも苔もなく、文字がはっきりと読める。碑は大きな部類ではないがすっきりとした端正な碑で、幅の細い2段の台石が特徴的。碑石も2段の台石も幅と奥行きが全く同寸法で、石工さんの几帳面さが伝わる。碑石には罫線が刻まれ、「義岳」の「岳」の字に旧字体が使われるなど、石碑全体から現代的ですっきりとした上品さを感じられる。

〔調査の経過〕

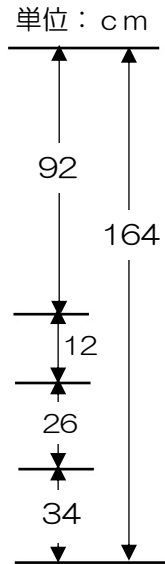
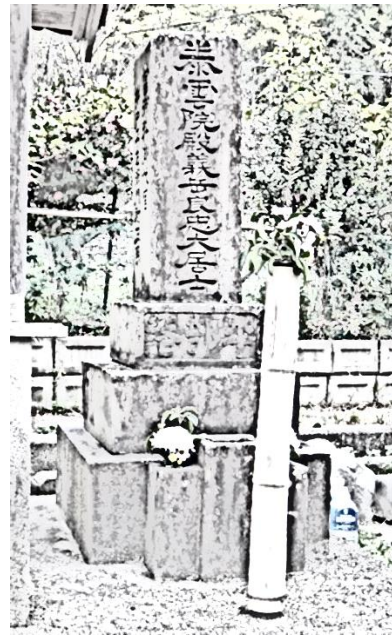
〔碑石前面〕 泰雲院殿義嶽良忠大居士
 〔碑石左面〕 享保十八年五月廿六日卒 / 當組中 / 明治廿三年辰十月建之 / 當山廿世全山叟代
 〔その他〕 文字なし

〔建立年〕 明治23年 (1890)
 〔建立者〕 當組中



【28】大田市静間町平 静間小学校入口（宮本 大 26/㊦-㊦-30） 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 大田市静間町平 静間小学校入口交差点 静間まちづくりセンター横
 北緯 35° 12' 13. 13" / 東経 132° 27' 51. 49"



碑石幅 33 / 奥行 29
 台石1段目幅 46 / 奥行 45
 台石2段目幅 64 / 奥行 64
 台石3段目幅 81 / 奥行 84

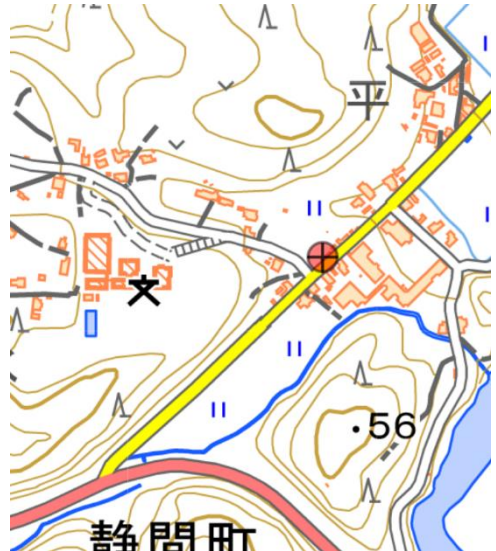
〔調査の経過〕
 県道の静間小学校入口の三差路の県道沿いに地藏堂とともに立つ。県道の向いには静間まちづくりセンター、静間保育園がある。碑は地藏堂と並んでコンクリートの上に立っており、黒っぽい石で傷みはない。以前に平の皆さんが建てたものを、昭和18年に楠屋さんが再建したということだろう。

〔碑石前面〕 泰雲院殿義岳良忠大居士
 〔碑石右面〕 享保十八癸丑年五月廿六日 / 昭和十八年十二月再建 / 楠屋
 〔碑石左面〕 當御料御代官 / 井戸平左衛門正嗣
 〔1段目台石前面〕 平部落

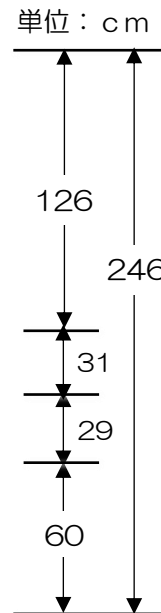
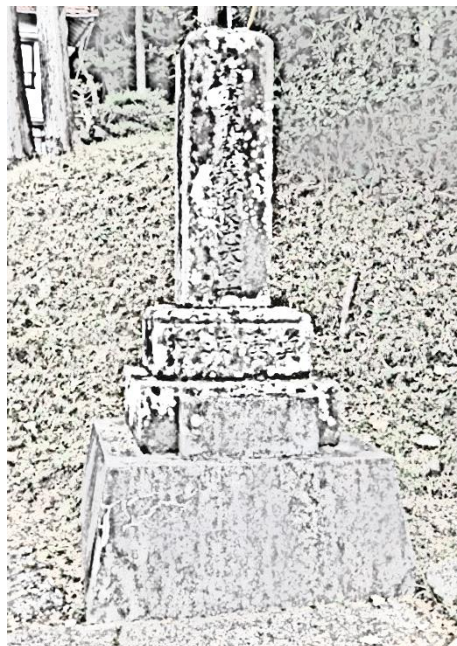
〔建立年〕 昭和18年（1943）再建
 〔建立者〕 楠屋（平部落）

（調査日 2020年11月20日）

碑の前に花立てと線香立てがあり、その前に竹の花立てもある。調査日には両方の花立てに菊の花が生けられており、地域の方がこの碑を大切にしている様子がうかがえた。



所在地 大田市静間町魚津（実際は垂水地内）市道四つ角
 北緯35°12′08.93″ / 東経132°27′30.70″

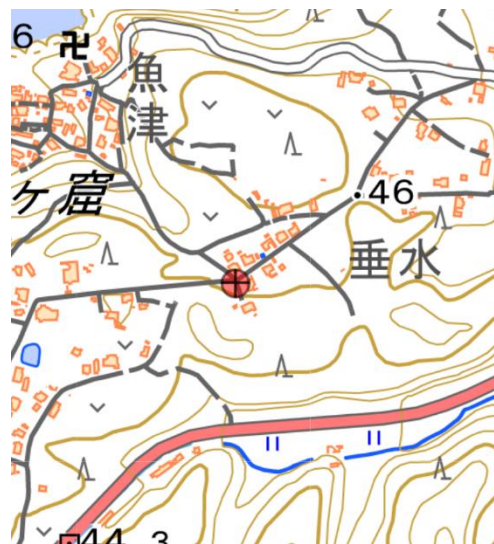


碑石幅 39 / 奥行 39
 台石1段目幅 69 / 奥行 69
 台石2段目幅 88 / 奥行 88
 台石3段目幅 136 / 奥行 134

〔調査の経過〕
 静間小学校から垂水へ上がり、魚津へ降りる四つ角に立つ。地元の話によると場所は垂水になるといい、魚津からここに移設されたらしい。台石2段目後面の「垂水中」の文字は小さく、「ここに移設したのは垂水の住民」という意か。石工さんはかなり几帳面な人だったようで、碑石、台石とも幅と奥行きが全く同寸法だ。3段目のコンクリートには中に石組が入ったままであり、崩れるのを防ぐためにカバーしたという。比較的傷みは少なく、文字もまだ読める。

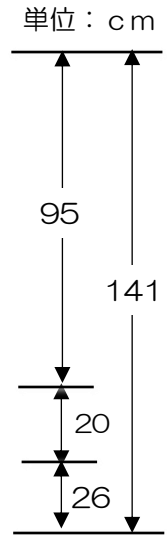
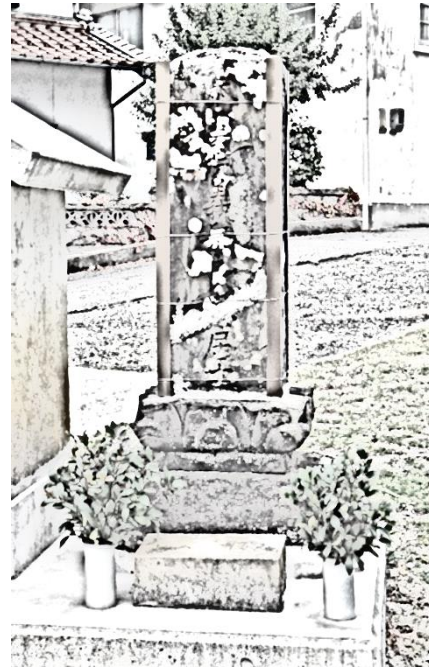
〔建立年〕不明
 〔建立者〕魚津浦中（垂水中）
 〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠大居士
 〔碑石右面〕享保十八癸丑年 / 五月二十六日
 〔碑石左面〕當御料御代官 / 井戸平左衛門尉正朋
 〔一段目台石前面〕魚津浦中
 〔一段目台石裏面〕垂水中
 〔二段目台石左面〕波根 / 石工 / 善藏 / 勘四郎

（調査日 2020年11月20日）



【30】 大田市静間町新田 (宮本 大23/ロータリー27) 泰雲院義岳良忠居士

所在地 大田市静間町新田 静間橋近くの新道沿い 地藏堂隣
 北緯 $35^{\circ} 12' 26.54''$ / 東経 $132^{\circ} 28' 11.54''$

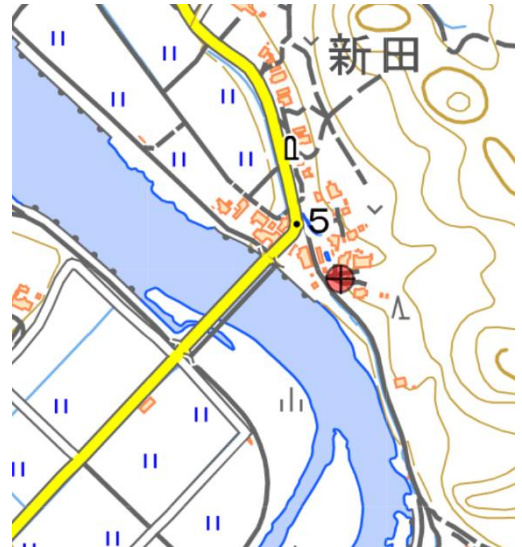
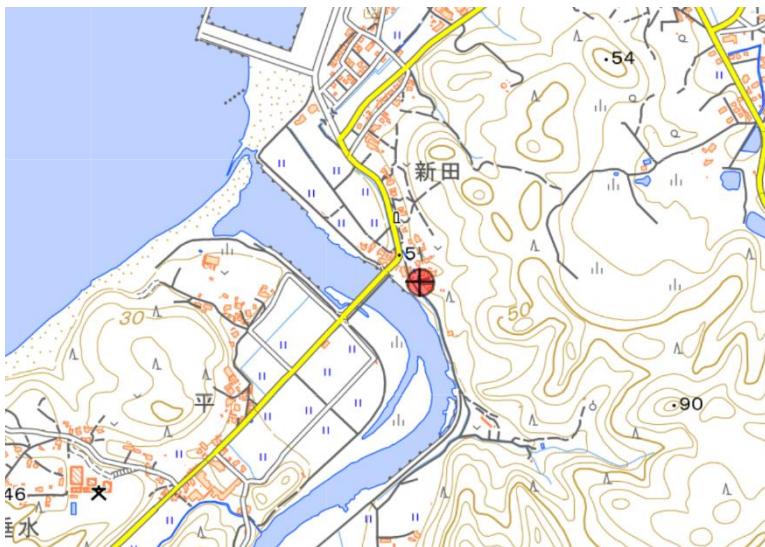


碑石幅 33 / 奥行き 30
 台石1段目幅 50 / 奥行 50
 台石2段目幅 80 / 奥行 57

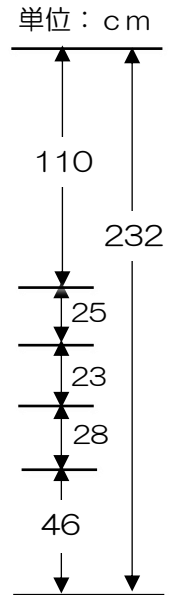
〔調査の経過〕
 静間橋のたもと、川の右岸から国道9号への新道の建設に当たり、一時道路の向いに移設してあったが、道路の完成により地藏堂とともに元の位置に戻った。工事が始まるずっと前から、碑石の下部で斜めに割れていて補修してあった。工事移動で壊れる恐れがあったが、4辺を木材で副え木して仮置きしてあった。現在は色と見栄えを考慮してアルミのアンクルで添え木してある。理想的な形ではないが、保存しないことを考えると、残していただいていた。今でも碑の前の花立てには新鮮なシビキ(シキミ)が供えてあり、姿形よりも、地域の皆さんがこうして見守っていただくの方が大切なことに思われる。

〔建立年〕 不明
 〔建立者〕 新田中
 〔碑石前面〕 泰雲院義岳良忠居士
 〔碑石右面〕 施主 新田中
 〔碑石左面〕 ……平左衛門 / 享保 …… / 於備中國笠 ……
 〔台石ほか〕 文字なし

(調査日 2020年 11月 20日)



所在地 大田市静間町和江 大年神社北隣 地藏堂前
 北緯 35° 12' 47.39" / 東経 132° 28' 08.61"



碑石幅 39 / 奥行 38
 台石 1 段目幅 58 / 奥行 56
 台石 2 段目幅 79 / 奥行 78
 台石 3 段目幅 103 / 奥行 103
 台石 4 段目 (石組) 最大幅 139 / 奥行 155

【建立年】天保 12 年 (1841)
 【建立者】和江浦中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士
 【碑石右面】享保十八年癸丑五月廿六日
 【碑石左面】當御料前御代官 / 井戸平左衛門正明
 【碑石裏面】天保十二年 / 辛卯十月 / 建之
 【二段目台石前面】和江浦中
 【三段目台石前面】世話人 / 吉野屋 / 廣右衛門 / 網屋 / 圓平 / 山田屋 / 市兵衛
 【三段目台石左面】亀屋住吉丸 / 傳兵衛

〔調査の経過〕
 和江の住宅地にある大年神社の北隣の大きな地藏堂の前に立つ。碑の材質は三谷晃氏の「大田碑石散歩」には御影石とある。磨いてないのでそれらしく見えないうが、最近建てたかのように端正な姿を残している。写真に見える神社の玉垣の柱も同石材。大田市内ではかなり古い方の碑で、碑文面が彫りこんであり、4段目の石組の台石には角に反りの加工もあって、ていねいな造りの碑だ。
 (調査日 2020年 11月 20日)

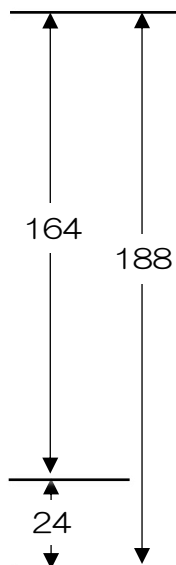


所在地 大田市五十猛町湊 共同墓地入口

北緯 35° 11' 39.94" / 東経 132° 26' 44.92"



単位：cm



碑石最大幅 62 / 奥行最大 60
台石 幅 114 / 奥行き 63

【建立年】不明
【建立者】不明

〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士塔
〔碑石右面〕享保十八癸丑年 / 五月二十六日
〔碑石左面〕當御料前御代官井戸平左衛門尉正明
〔台石〕なし

〔調査の経過〕
共同墓地は湊地区のJR山陰線のすぐ南側にあり、その入口に「謝恩碑」とともに墓地のモニユメントのように立っている。台石の左右の石は、二つの碑を囲むように置いたものだろう。台石の前には陶器の花立てが埋められ、碑石の前には湯飲み茶わんもあるので墓参に来た人が花を供えることもあるのだろう。宮本調査の写真と比べて傷みが進んで倒れるのを防いでいるようだ。

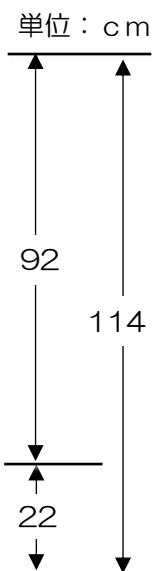
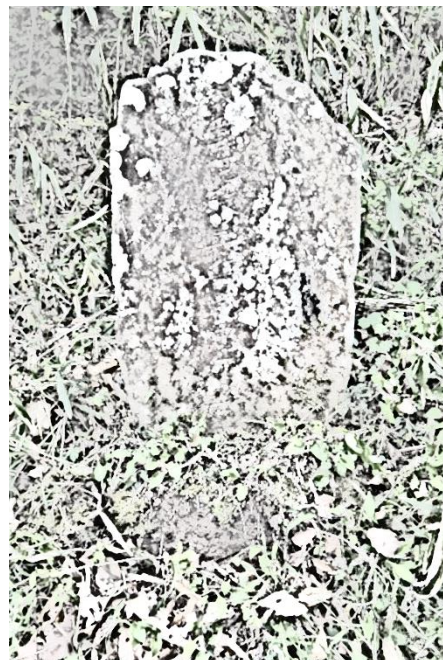
隣の謝恩碑は、宮本氏は「井戸公碑ではない」とメモしながらも「大34」と番号を与えているが、碑石に「謝恩碑 / 吉原□□ / 田中□□」「天明八甲三月」「安政三丙辰六月建之湊中」とあり、天明年間に功績のあった2人に対する謝恩碑を安政3年に建てたものと思われる。井戸公碑からは外すことにする。

(調査日 2020年4月22日)



【33】 大田市五十猛町地頭所 (宮本 大 33/㊦-㊦-37) 泰雲院殿義岳良忠居士

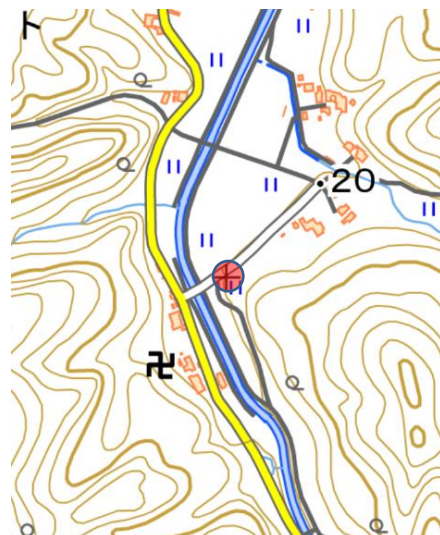
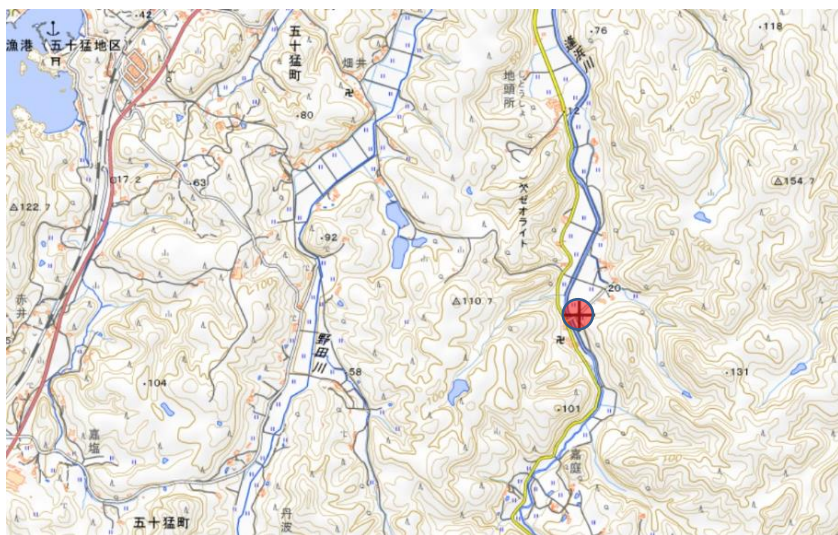
所在地 大田市五十猛町地頭所 市道と里道の三差路の法面上の約1㊦の場所
 北緯35° 10' 34. 22" / 東経132° 26' 37. 99"



碑石最大幅 60 / 奥行最大 30
 台石 幅 70 / 奥行き 66

(調査日 2020年4月22日)

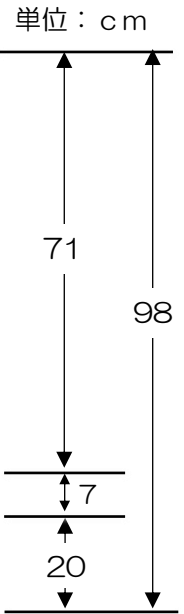
【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【その他】なし
 【台石】なし
 【調査の経過】
 宮本調査資料を見ながら近くまで行つたが発見できず、近くで草刈りをして見えた男性に尋ねると「草に隠れて見えないが」と場所を教えてくれた。草と笹に覆われて下の道路からはあまり見えず、草刈りをして見えるようにした。頭部が欠けているの形に見えるが、最初からこの形の自然石だったと思われる。正面の文字以外は何も文字がないように、正面の文字も浅く、ゆがんでおり、もしかしたら素人が彫つたものかもしれない。宮本調査では台石の下離れた場所に小さな石があつて文字が見えそうなので、そこに何か彫つてあるかもしれない。法面の土がずれてきて後部はほぼ埋まつており、台石の採寸も難しかった。



所在地 大田市五十猛町嘉庭 観音堂下

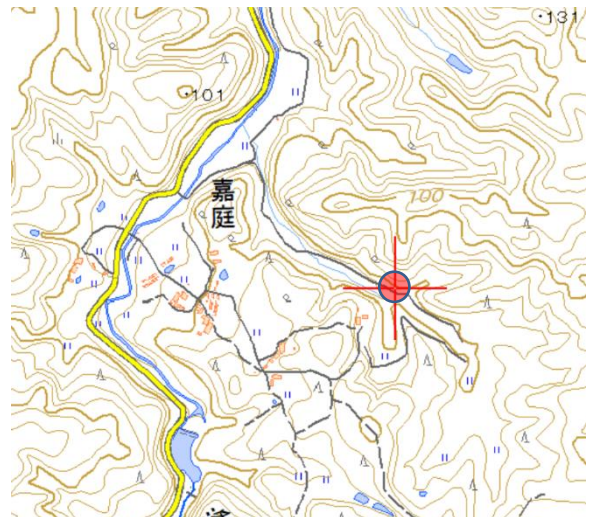
北緯35°10'10.13" / 東経132°26'50.43"

軟らかい石で文字はかなりの消えており、碑石の下部は欠落している。2段の台石の上の中央にあったと思われるが、下部が欠落して倒れたため、どなたかが右の岩に沿って建てかけたのだろう。後部をレンガ状の石で支えてある。宮本氏の写真には碑石の前に花立があつたが、その調査後に現在の状態になったのだろう。



碑石幅 25、奥行き 25
 台石1段目 幅62、奥行き52
 台石2段目 幅78、奥行き55

【建立年】弘化4年（1847）
 【建立者】川北連助（宮本資料）世話人 松原
 「碑石前面」……良忠居（以下欠落）
 「碑石右面」享保十八癸丑五月（以下欠落）
 「碑石左面」弘化四年七月建□／世話人／松原（以下欠落）
 「調査の経過」宮本台帳には大田32として存在するがロータリー調査では「未確認」としている。観音堂を知っているという五十猛町の松原さんに案内を依頼し、長尾英明五十猛まちづくりセンター長ほか4人、市文化協会の縄田事務局長とで現地調査。県道の、山陰道の橋脚工事現場付近に駐車して山の中を約1キロ進むと、岩場の石を加工して場所を作り、道路から約4段上に建てられていた。私たちが歩いた道は昔の往還道で、大屋町に続くという。竹が生えて歩きにくい田の跡が随所に残り、人の営みを感じられた。小川に沿って道が続き、観音堂に上がる分かれ道の上に建っていた。
 （調査日2019年4月17日）

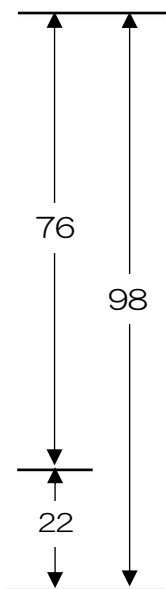


【35】大田市五十猛町野梅 (宮本 大 31/ロ-列- 35) 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 大田市五十猛町野梅 林定直氏宅裏山 賽の神の隣
 北緯 35° 10' 54.97" / 東経 132° 25' 48.07"



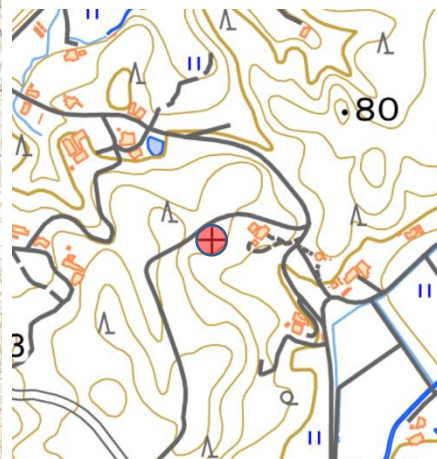
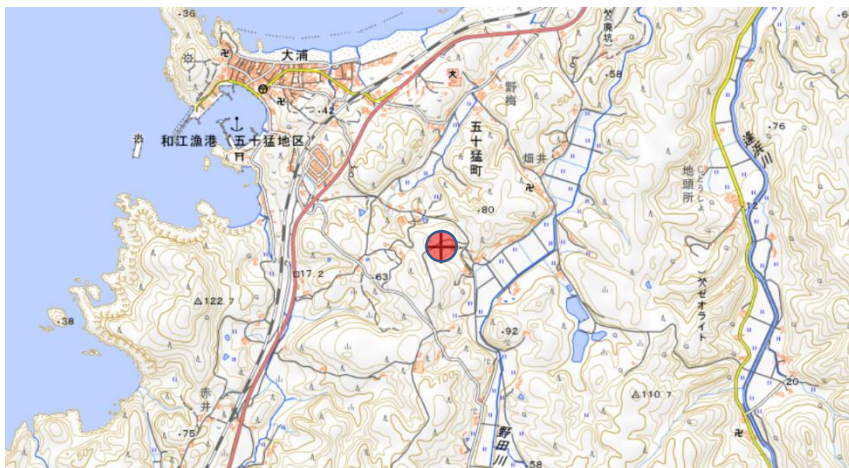
単位：cm



碑石 幅 27 / 奥行 27
 台石 幅 45.5 / 奥行 45

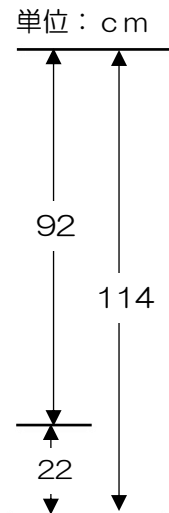
(調査日 2020年4月27日)

【建立年】不明
 【建立者】野梅・畑井
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八癸丑年五月廿六日
 【碑石左面】井戸平左衛門尉正明
 【台石右面】野梅／畑井
 【調査の経過】
 場所がわからず、長尾五十猛まちづくりセンター長に教えてもらった。
 つつじをたくさん植えている林定直氏宅裏山に賽の神と並んで立っている。この場所は五十猛と大森との往還道といい、往來の安全を祈願した賽の神と一緒に建てられたのだろう。ただし、周囲は平成になってから再整備されたようで、黒御影の説明板が2枚設置されていて、その1枚が井戸公碑の前面を塞ぐ場所に建てられている。宮本調査にはもう1段台石があったようだが、撤去されている。下部はコンクリートできちんと舗装、強化されているが、碑石は福光石で一部剥離がある。



【36】大田市五十猛町丹波 (宮本 大 30/ロ-列-34) **井明府君碑**

所在地 大田市五十猛町丹波 国道9号大浦入口点滅信号から南進 細い道との四つ角
 北緯 $35^{\circ} 10' 43.80''$ / 東経 $132^{\circ} 25' 46.90''$

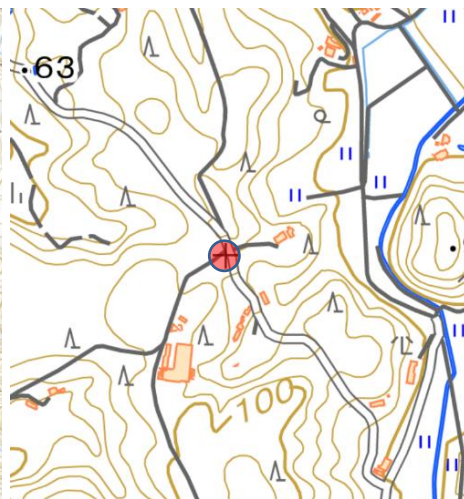
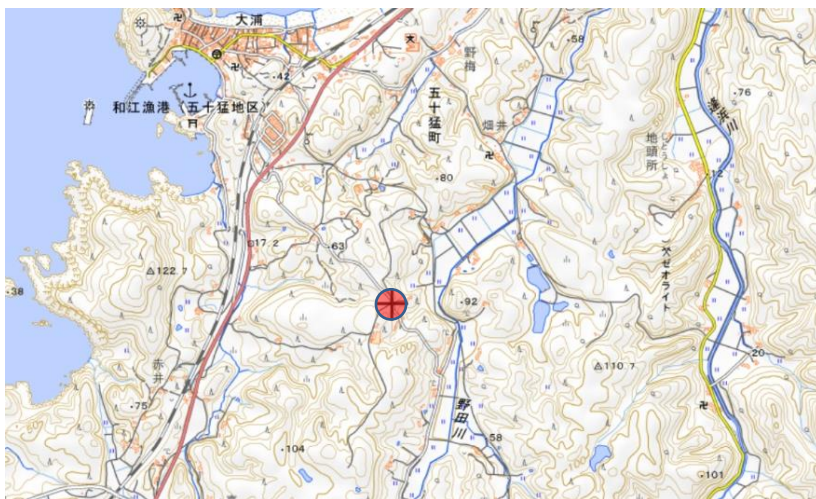


碑石 最大幅 60 / 奥行き最大 30
 台石 幅 75 / 奥行 48

(調査日 2020年4月27日)

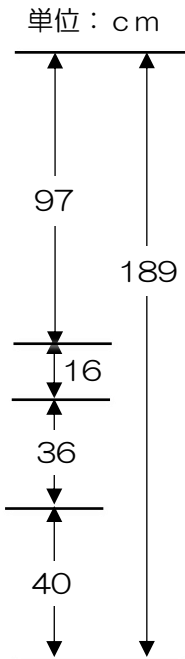
【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】井明府君碑
 【その他】なし

〔調査の経過〕
 場所がわからず、長尾五十猛まちづくりセンター長に教えてもらった。
 国道9号の「大浦入口」点滅信号から南に入りゆるやかな上り坂を進んだ峠付近の、細い道との交差点の法面に建つ。
 石碑の前に石の線香立てと、一對の陶器の花立てがあり、シビキ(シキミ)が供えてあった。
 宮本調査時には台石がもう2段あるように記録があるが、自然石の台石が1段だけである。前に石が並べられているので、崩壊した台石の石なのかもしれない。



【37】大田市五十猛町赤井 (宮本 大28/ロ-列-32) 井戸公之碑

所在地 大田市五十猛町赤井 国道9号近くの市道沿い 地藏堂隣
 北緯35°10'41.22" / 東経132°25'22.42" (国土地理院)



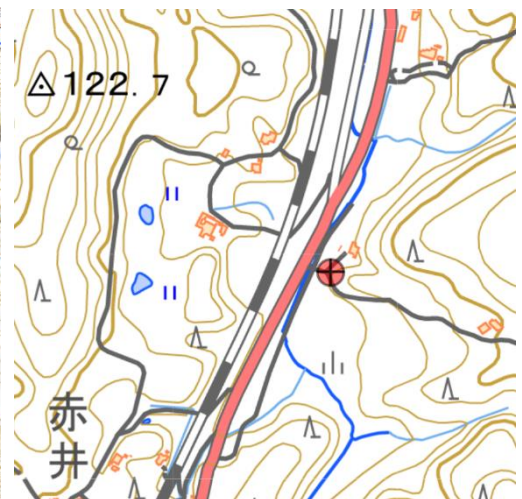
碑石最大幅 70 / 奥行最大 33
 台石1段目最大幅 85 / 奥行き最大 80
 台石2段目幅 43 / 奥行 43
 台石3段目幅 73 / 奥行 72

〔調査の経過〕
 国道9号の東側約30㍍の地点で、国道からよく見える。市道のカーブの空き地に地藏堂と並んで建つ。特徴的な碑の形で、台石の2段目3段目はコンクリート製。自然石の碑石と1段目の台石が宙に浮いたように見える。碑石はしつかりした石で、表裏の碑文はよく読める。前に花立てがあり、季節ごとに花が供えられていて、地域の皆さんが大切にしている様子がうかがえる。
 碑石裏面の「元碑壊破」は再建するために壊したという意味ではなく、壊れたため再建したとの意だろう。後ろに旧碑の碑石が横たえられており「享保十八癸年丑五月二十六日」が読める。

〔碑石正面〕井戸公之碑
 〔碑石裏面〕享保十八年五月二十六日 / 元碑壊破 / 昭和三年九月再建
 〔台石〕なし

〔建立年〕昭和3年(1928) 再建
 〔建立者〕赤井區立

(調査日2020年11月20日)
 (写真2014年2月12日)

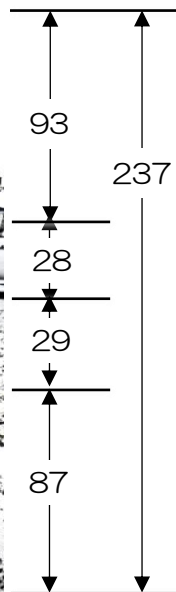


所在地 大田市五十猛町大浦 浄圓寺墓地入口

北緯 35° 11' 13.87" / 東経 132° 25' 23.80"



単位：cm



碑石幅 37 / 奥行 36
 台石 1 段目幅 59 / 奥行き 58
 台石 2 段目幅 83 / 奥行き 78
 台石 3 段目 (石組) 最大幅 206 / 奥行き最大 183

(調査日 2020年 11月 20日)

大浦の港の近くにある浄圓寺。広い境内と本堂の後ろの斜面に墓地が広がっており、その入り口にあたる場所に井戸公碑がある。建立年は彫つてないが、白っぽくて堅そうな石で傷みはなく、彫つてある字も読みやすい。「泰雲院」が「泰運院」になっていたり、「正明」でなくて「保明」になっていた。正面にある花立てと線香立ては後から設置したらしく、それらが隠れている2段目の台石にも刻字がある。碑の手前の流し台や、横にあるペットボトルは、井戸公碑のためというよりも、この上にある墓地にお参りする人たちが使うためのものと思われる。

【調査の経過】

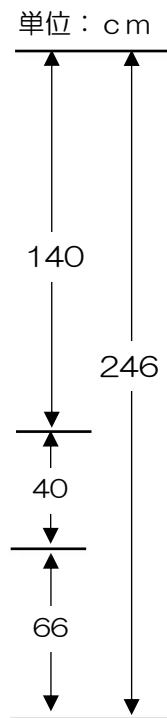
- 【建立年】不明
- 【建立者】大浦湊中
- 【碑石前面】泰運院殿義岳良忠大居士 (右に) 享保十八癸年 (左に) 丑五月廿六日
- 【碑石右面】俗性 / 井戸平左衛門尉保明
- 【碑石左面】施主 / 大浦湊中
- 【一段目台石前面】世話人中 / 荒木 / 善右工門 / 松尾 / 弥助 / 林儀助
- 【二段目台石前面】勝川屋 / 善平船 / 來 / 福重丸



【39】大田市大屋町尾波 (宮本 大39/マ-タリ-43) 井戸明府之碑

所在地 大田市大屋町尾波 中尾波自治会館前

北緯35°08'56.42" / 東経132°26'56.34" (国土地理院)

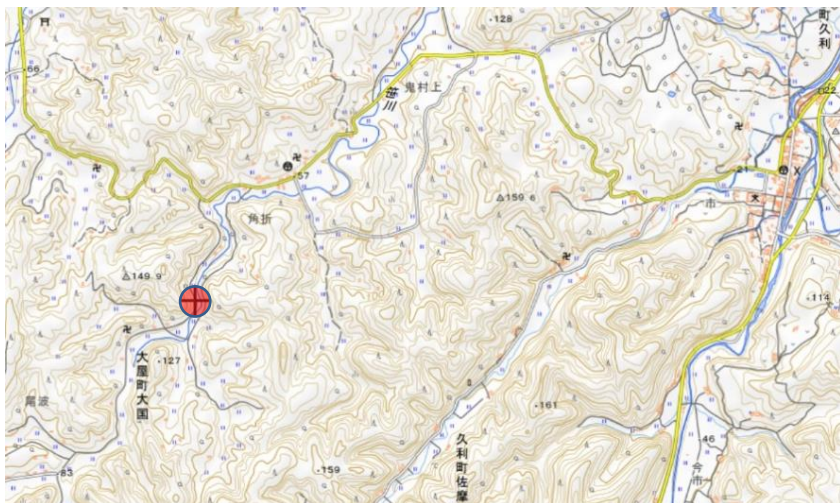


碑石 最大幅 71 / 奥行き最大 50
 台石1段目 幅 122 / 奥行 63
 台石2段目 幅 120 / 奥行 90

(調査日2020年4月23日)

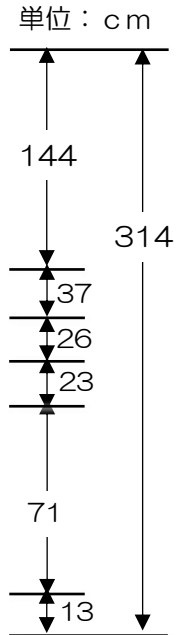
【調査の経過】
 県道の尾波口バス停から入り、集落が始まる場所の三差路に地藏堂とともにある。川を挟んだ向かいには中尾波自治会館がある。周囲はきれいに手入れされ、石碑前には白い花が咲き、右側にはツツジの木もある。竹の花立てには野の花(キンポウゲ)が供えてあった。地域の皆さんに大切にされていることがうかがえる碑だ。

【建立年】大正13年(1924)再建
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸明府之碑
 【碑石左面】大正十三年十一月再建
 【その他】なし



【40】大田市大屋町鬼村 (宮本 大 38/㊦㊦-42) 欣澤碑

所在地 大田市大屋町鬼村 県道沿い
 北緯 35° 09' 47.62" / 東経 132° 27' 25.27"

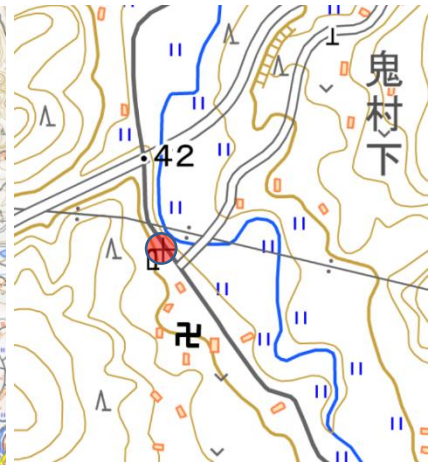


碑石 最大幅 56 / 奥行最大 33
 台石1段目 最大幅 153 / 奥行最大 116
 台石2段目 幅 91 / 奥行 91
 台石3段目 幅 115 / 奥行 115
 台石4段目 幅 166 / 奥行 166
 台石5段目 幅 308 / 奥行不明

〔調査の経過〕
 大屋から五十猛に抜ける県道沿いに広い場所をしつらえ、大きな石灯笼と手水鉢と思われる(現在は壊れている)構造物が残る。碑石だけで144㊦あり、5段の台石の上に乗る堂々たる石碑。国土地理院地図にも石碑のマークが記されているほど。一番下の台石は高さは13㊦と低いが、幅は308㊦もあり、碑を大きく取り巻く。碑石に彫った文字は「欣澤碑」の3文字だけ。大正15年に再建した当時の地域の皆さんの意気込みの大きさが感じられる。それだけに、建立した皆さんの情報が彫られていないのが残念だ。碑の後ろに再建前の旧碑が寝かせてある。

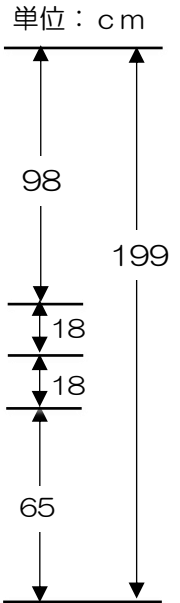
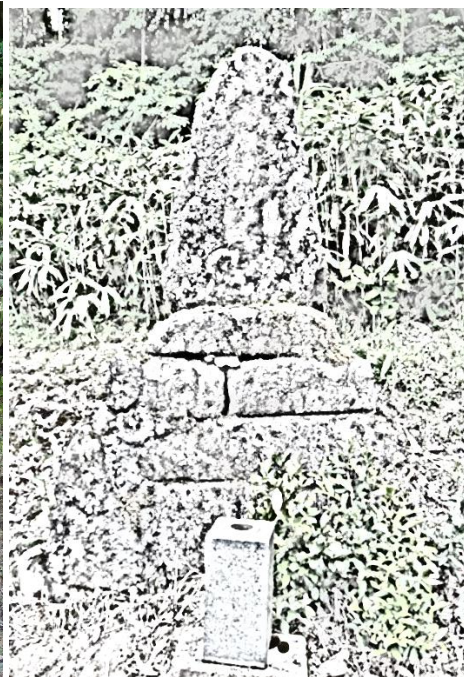
〔建立年〕 大正15年(1926)再建
 〔建立者〕 不明
 〔碑石前面〕 欣澤碑
 〔碑石右面〕 井戸平左衛門尉正明公
 〔碑石左面〕 大正十五年十一月再建
 〔その他〕 なし

(調査日 2020年5月22日)



【41】大田市大屋町菰口 (宮本 大40/マ-タリ-44) 秦……忠居士

所在地 大田市大屋町菰口 細い市道沿い
 北緯35° 09' 36.99" / 東経132° 26' 11.00"

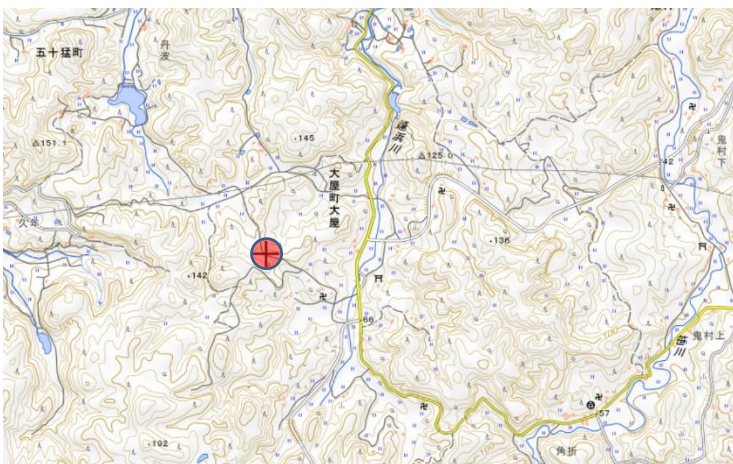


碑石 最大幅 60 / 奥行最大 41
 台石1段目 幅 66 / 奥行 66
 台石2段目 幅 85 / 奥行 88
 台石3段目 最大幅 118 / 奥行最大 115 (石組)

〔調査の経過〕
 大屋町から五十猛町丹波へ通じる旧道の脇に、第26代代官天野助次郎の頌徳碑と並んで立っている。右隣に立つ天野代官の石碑も文字が読めないが、この碑も全く文字が読めない。硬そうな石に見えるが、彫りが浅かったのかもしれない。碑銘は宮本調査の記録を採用した。道路沿いの高手に平らな場所を作って2つの石碑が建ててある。現在は周囲に民家は建っていないが、今でも周囲は手入れされている。碑の前には新しそうなたの花立もあり、今も変わらず地域の皆さんに大切にされていることがうかがえる。

〔建立年〕不明
 〔建立者〕不明
 〔碑石前面〕不明 (宮本調査では「秦……忠居士」となっている。
 〔碑石左面〕なし
 〔その他〕なし

(調査日2020年5月22日)

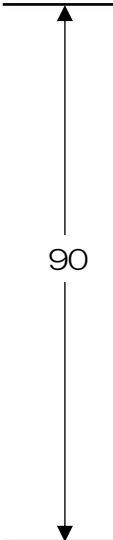


【42】大田市久利町市原 流水氏宅（宮本 大37/㊦㊱-41） 井戸公之碑

所在地 大田市久利町市原 元正善坊 流水善正氏宅庭
 北緯35° 08' 25.70" / 東経132° 28' 15.03"



単位：cm



碑石最大幅60 / 奥行き最大25

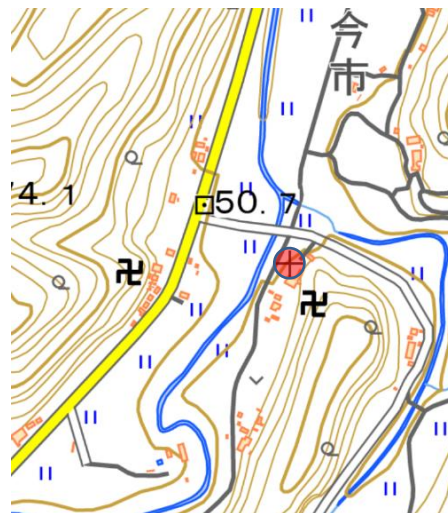
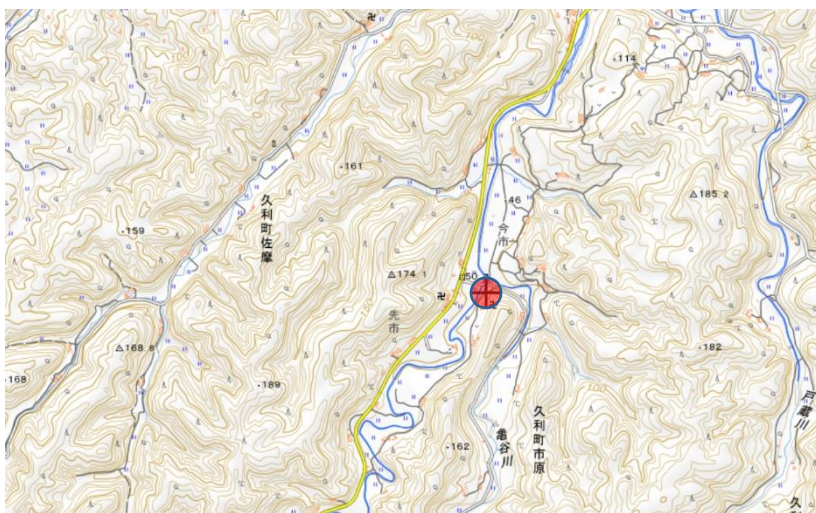
【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】（家紋）井戸公之碑
 【その他】文字なし

【調査の経過】
 主要地方道大田桜江線の亀谷口バス停から東に入るとすぐにある正善坊前橋を渡った右手が流水氏宅。以前は正善坊という寺院だった。その庭に立ち木に立てかけるように碑石が置いてあり、正面に井戸公の家紋である丸に違い鷹の羽紋と「井戸公之碑」の文字がある。どちらも彫りは浅いが、硬い自然石のため比較的鮮明に残っている。家紋が彫られている井戸公碑は珍しく、大田市内では唯一と思われる。

正善坊だった時代には別の場所
 にあり、台石もあったのではな
 いかと思われるが、現状ではほ
 かに文字が全くなく、建立年や
 建立者の情報がない。

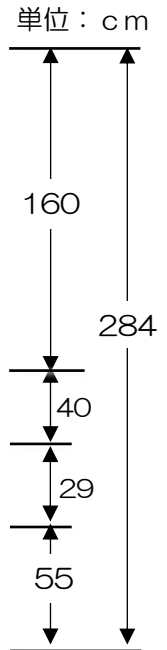
【注】建立場所は現在個人の宅
 地内なので、訪問の際には流水
 善正氏の許可が必要。

（調査日2020年5月22日）



【43】大田市久利町赤波 (宮本 大 36/マ-タリ- 40) 井戸公之碑

所在地 大田市久利町赤波 市道沿い 戦没者之碑と並んで立っている
 北緯 35° 08' 43.88" / 東経 132° 27' 39.02"



碑石最大幅 72 / 奥行き最大 40
 台石 1 段目幅 110 / 奥行 76
 台石 2 段目幅 126 / 奥行 93
 台石 3 段目幅 179 / 奥行 85

〔調査の経過〕
 県道から赤波方面に向かいしばらく進むと道路右側にある。道路沿いの岩盤を高さ約1.5mで平らに加工し、井戸公碑と「戦没者之碑」の二つが並んで立っている。台石3段目に花立てを差し込む穴が加工してあり、竹の花立てが立ててあった。

〔碑石左面〕 世話人 / 清水直義 / 山崎要一
 〔台石〕 なし

〔建立者〕 世話人

〔建立年〕 大正7年(1918)再建 旧碑は嘉永4年(1852)

〔碑石前面〕 井戸公之碑(左側に) 正五位勲四等西村保吉謹書
 〔碑石右面〕 嘉永四年 / 創設者杉谷喜右衛門 / 大正七年十一月建立

(調査日 2020年4月23日)

